



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立厚別中学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■ 幅広い読書を促す

今年度は、教育公務員弘済会図書助成（20万円）に応募し採用されました。今回の助成金で新たに86冊を購入できました。地理歴史、自然科学、技術など生徒が幅広い関心をもてるよう、入門的で図版が豊富な本を選びました。先生方にも生徒へのPRをお願いしたり図書の紹介を掲示したりするなど積極的に利用を促しています。

■ 学級文庫の充実

一般的な学級文庫は、主に学級担任の自主的な取り組みとして置かれることが多いようですが、今回の取り組みは、図書館の本を20冊程度各学級に順次配備し、利用状況を踏まえた図書の入れ替えを行っていきます。

図書館を利用するきっかけをつかめないままの生徒が少なからずいることや、生徒の読書傾向がライトノベルなど軽い読み物に偏りがちなこともあるため、先生方と協力しながら継続的に幅広い読書を促していきます。

学習センターとしての機能

■ 授業支援

授業と関連する図書を先生方からの依頼に基づいて提供しています。例えば、理科で人体に関する興味を深める図書や、国語の俳句や短歌の創作方法に関する本などの提供が可能です。先生方の依頼に適切に応えられるよう、日頃から先生方と連携を深め図書の充実に努めています。

■ 探究的な学びの促進

呼びかけだけでなく、図書局員・担当教員・司書が協力しながら、率先して探究的な学びに取り組み、成果を発表していきます。

今回の読書ウィークでは、局員が主体となり「都道府県魅力度ランキング」について調べます。具体的には、ランキングの結果を鵜呑みにせず、どの機関がどのような方法で順位付けしているのか、その妥当性を調べたり、下位の自治体のどこが問題なのか、魅力的なところはないのか、さらに、上位の常連である私たちの住む札幌・北海道のどこが魅力的なのかを調べ発表したりする予定です。

情報センターとしての機能

■ メディアリテラシーの育成

本校では、朝日、読売、北海道、読売中高生新聞の4紙を図書館で読むことができます。図書館前に今年度新設した自習・閲覧用のスペース（写真参照）に新聞各紙を配置し、掲示板には生徒が関心を持ちそうな記事を掲示し、随時更新しています。また、社会科では今年7月の「参議院議員選挙結果」の報道について新聞各紙を比較する授業で活用されました。このような実践についても、呼びかけだけに終わらず、図書局員が主体となって継続的に取り組み、成果を発表していく予定です。

